

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100353		
法人名	有限会社介護サービスキャッスル		
事業所名	グループホーム賀茂		
所在地	静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須534-1		
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270100353&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年09月06日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着に基づき、誰もが自然に来れるような、風通しの良い施設の雰囲気作りを行い、実際にほぼ毎日のように、利用者の御家族や知人が面会に来てくださっている。静岡県下では西伊豆町は高齢化率第二位の地域であり、施設が足りなく、選択範囲が限られる地域である。その為、重度の利用者にも対応すべく近隣の診療所にも協力を頂き、受け入れ態勢を強化している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人として生きる」の理念に沿って、「利用者がこちよく平常心を保って過ごせるように、利用者の立場にたつて、介護をする。」という気持ちを職員が日頃から心がけているため、利用者の皆さんは穏やかな表情をしています。職員は毎日行うミニカンファレンスで利用者の様子を具体的事例で確認し、声かけをして、少しでもケアが上手に行えるようにアイデアを出し、意識を統一して行っています。また、地域がら、高齢化が進んでいるため、災害があった時に近隣の住民がこのホームに避難したいと希望されたり、独居の高齢者に散歩の時に声をかけたりと地域に根づいたホームをめざして、日々努力しています。また、毎日の手作りの食事は利用者が楽しみにしていて、職員と一緒にゆったりと召し上がっていました。管理者は若い職員が仕事に責任を持って行動してもらえるように教育に取り組んでいました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人として生きる」という理念を掲げ、入居者の希望と身体状況のバランスを考慮し、実践している。	「人として生きる」という抽象的な言葉は、人それぞれ解釈の仕方が違っていいという考えで決めたもので、職員は利用者の一人ひとりが自宅で過ごした時と同じようにゆったりとした気持ちで生活ができるように管理者と共に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の入居者家族、知人が当ホームに訪ねてきて下さり、地域の情報は常に収集することができ、地域の一員として交流が出来る。	事業所は組合に加入し、行事やお祭りなどには利用者とは出かけている。町内の清掃には職員が出ている。近隣の方や利用者の家族が訪ねてきたり、散歩に出かけたときには近隣で一人暮らしの高齢者の家の人に声かけを行ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者家族を通じて、一部の人達には当施設の理解はされているが、一般の人達にはまだまだ理解は不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居、退居状況、また実際に入居者の生活状況を伝達している。運営委員の方達からはそれ程意見を頂いたことはないが、今後は議案を出して頂くよう取り組みたい。	運営推進会議は2ヶ月に一度開催したいという気持ちはあるが、実際にはまだ数回しか開催できていない。これからは2ヶ月に一度の開催をめざして、準備中である。運営委員にもまめに声かけをしているが、なかなか参加してもらえず苦労をしている。	「運営推進会議はサービスの質の確保を図る2ヶ月に1回の開催が望ましい。」と基準省令にもあるので取り組んでほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居依頼の相談を受けるがその都度、状況を説明し理解を頂いている。	生活保護者の受け入れも行って、市町村との連絡は密にしている。管理者は月に何回かは担当者の所に出向き、ホームだよりを届け、様子を報告している。消防、防災関係の人達が事業所に一年に3回は出向いてくれ、いっしょに訓練を行っている、	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前に無断にて外出し、怪我をして帰ってきた利用者があり、また、施設の裏側に山があるので安全を考慮し、基準を考慮しながら対応を行っている。	県の基準を考慮し利用者が日常生活を快適に過ごせるように、できるだけ外出の制限をしないようにしている。地理的に裏山が地震などで崩れやすく山では野生の動物がいて危険なので、無断外出には注意している。出入口横に事務所があるので職員が声をかけあって気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止ポスター、またはミーティング時に話す機会を持ち、注意を払っている。		

静岡県(グループホーム賀茂 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者から職員にむけ、会議等で事例を話し、必要性を話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前に話し合いを持ち、またはその場所にケアマネージャーの方にも同席頂き、御理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて報告をし、改善に努めている。	敬老会の時に家族会を行っていて、家族の意見を聞いて運営に反映させている。GHIに訪ねてくる家族には、意見を伺うようにし、意見が出たら関係者と話し合っ、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議にて報告をし、改善に努めている。	朝会を欠かさず開催して、利用者の様子を、全職員が把握するように務めている。ミーティングも1ヶ月に2回は行うようにしている。カンファレンス会議も全職員が関わるようにしている。また職員はユニットリーダーに事例の相談をして、利用者にとって心地良い対応を常に模索している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を常に把握できるよう、話し合いを持ち改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設の講習会に参加させて頂き、研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域関連施設の研修会に参加させて頂き、交流を図ることにより、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの話し、要望は可能な限り、時間をかけて聞いている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほぼ毎日のように家族の方達が面会に来て下さり、要望は出来る限り受けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の段階にて、例えば長期的に観ていかなければならない疾患を抱えている方に関しては、入院や受診も視野に入れた対応を説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として職員、利用者とともに良い関係を作る事に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方達には常々、面会に来て頂くよう声かけをしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域がら、入居者の親戚や知人がよく面会に来られるが、帰りの際にはまた来て頂くよう声をかけている。	家族をお願いして、できるだけ、家族や知り合いに来てもらえるように声かけをしてもらっている。また地域には高齢者が数多く住んでいるので、心細いのではないかと考え、散歩の時など積極的に事業者側から声かけもしている。 事業所主催のイベントの開催がないようなので、近隣の人や馴染みの人が一緒に集まれるような行事を行うなどの工夫を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方達が近所付き合いのあった方達であり、良い関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで係わってきた家族の方達とは、手紙のやり取りを通し関係を築いている。近所にいらっしゃるので話す機会も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位で過ごせるよう、環境作りや声かけを行っている。	家事をしたいという利用者には、洗濯干しや食器の片付けを行ってもらう。マッサージが好きな利用者には職員の肩をもんでもらうなどの工夫をしている。食後に部屋でくつろぎたい人には声かけをし、リビングのソファでんびりテレビを見たい人は連れて行くなど、さりげなく行われていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入所される前に担当していたケアマネージャー等に情報提供して頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や入所される前に担当していたケアマネージャー等に情報提供して頂き、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプランを作成し、家族に送り、同意書を頂いている。	利用者本人が毎日を快適に過ごせるように、職員が全員で話しあって、ケアプランを作成している。また、家族にはケアプランを送って同意書をもらっている。また事業所は「DARP」という独自の書式に基づき、記録にも工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況の変化が著しい為、常に見直しを行い、記録にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じ行っている。		

静岡県(グループホーム賀茂 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望や身体状況に応じ行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者が納得のもと、定期受診や緊急、終末期ケアを支援して頂いている。	事業所の近くの診療所の医師が4週ごと、またかかりつけ医療機関継続者5人はかかりつけ医がそれぞれ往診してくださるので、利用者全員の状態が把握できている。15km先に大きな病院があり、入院の受け入れをしてくれる。診療所の先生には終末期の医療的支援をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員同士の情報交換を密にとり、早期対応に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した場合は可能な限り病院に出向き、情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所段階にて家族に希望を伺い、主治医とともに入所～終末期の話し合い、対応が出来ている。	家族には、文書化はしていないが、点滴、胃ろう、インスリンの対応はできないことを伝えていた。前回の調査後、4人の方を看取り、今回の調査の前日も看取っている。医師も早朝であったが往診してくれた。家族は近くに住んでいる場合が多いので、泊まることはないが協力的で、夜間も連絡をすれば駆けつけてくる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている。地域に関しては行政とともに体制を築いている。	夜勤帯での火事を想定した訓練を行っている。2階の担当職員は9人の入居者を一人で抱えたり、おんぶしたりして降ろし、タイムも毎回測っている。タイムは消防署の指導を受けている。防災訓練は年に3回行い、消防署、地域のケアマネ、近隣住民の参加もある。ヒューマンビラとは火災時協力体制にある。消防署への直接通報装置や発電機もある。	備蓄の食料が不足しているとのことで検討中であるとのこと、実践を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ、対応を心掛けてはいるが、長期にわたり入所されている方達など、どうしても慣れ合いな言葉使いになってしまう事もある。	個人情報に配慮していて、「人として生きる」の理念のもと、馴れ合いの言葉遣いにならないように心がけている。しかし、入居者は浜育ちが多く、言葉は乱暴で、方言の使用も多い。3ヶ月に1度発行している、ホームだよりには、写真掲載は家族の許可を得ているが人物は後ろ姿を載せている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけはおこなっているが自己決定できる方がほとんどいない状況である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き、安全に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と協力し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ひとり一人が食事を楽しみにして下さっている。自力で歩ける方の中には片づけを手伝って下さる人もいる。	利用者は食事作りは参加できないが、調理師と職員の手作りの食事を楽しみにしている。食事の後片付けは、出来る人が他の利用者の分も運んでくれていてテーブルをきれいに拭いてくれた利用者もいた。食事中はゆったりと食べられるような配慮がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとり一人の身体状況に応じ、食事形態や量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

静岡県(グループホーム賀茂 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄を勧めている。	食前、食後、就寝前は必ずトイレに誘導し、見守っている。トイレ内で速やかに行動ができない利用者にも声かけをしたり、手助けをしたりして、ゆったりと出来るような配慮をしている。利用者の排泄パターンは職員全員で把握しているので定期誘導をしている。利用者によっては夜間のみおむつを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を設け、必要に応じ食事や服薬の配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員配置の状況、また主に重度の利用者が多数おり、なかなか本人の希望通りに添えていないのが現状である。	入居者は高齢で重度化しているため、状態に合わせてながら、職員の手のある時間帯に入浴剤を使用して週3回は入浴支援をしている。疥癬感染者1人には毎日入浴支援がなされている。拒否反応の強い利用者には家族の了解を得て、職員2人体制で入浴支援をしている。異性支援拒否者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のお昼寝等、なるべく御自宅で過ごされていたような生活習慣を配慮して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々係わるものであり、処方箋を確認し、必要であれば看護師に説明を聞きながら対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや手芸、散歩等、身体状況に応じた対応をしている。		

静岡県(グループホーム賀茂 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況や職員の配置を考慮するとなかなか行けていない状況ではある。利用者によっては家族が定期的に外に連れ出す事もある。	食材は沼津で一括購入しているので、不足分を入居者と車で買い出しに行っている。散歩は天気の良い午後に出かけている。事業所に車が3台あるので、桜見物や近くに出かけることはあるが、個人的な支援は家族に協力してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者に関り、支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に応じ配慮している。	山が隣にあるので、窓から木々の緑が目にあざやかで、ベランダには種類の異なる緑のカーテンゴしにやさしい光が入る。壁には、季節の花を切り貼りされた絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりの居室にて過ごす事も可能であり、またフロア内にソファを設けくつろげる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で長年使用していたものをそのまま持参して頂いて	使い慣れた物は、危険物でなければ何でも持ち込むことが自由で、居室は利用者によって個性的である。喫煙者には決められた場所で喫煙するよう指導している。居室には、壁掛けテレビが設置されていて、スプリンクラーも設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症がかなり進んでいる利用者が数多く過ごしているが、安全に移動したり、自己判断で危険がないようであれば見守りなどで対応をさせて頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270100353		
法人名	有限会社介護サービスキャッスル		
事業所名	グループホーム賀茂		
所在地	静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須534-1		
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270100353&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年09月06日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域密着に基づき、誰もが自然に来れるような、風通しの良い施設の雰囲気作りを行い、実際にほぼ毎日のように、利用者の御家族や知人が面会に来てくださっている。静岡県下では西伊豆町は高齢化率第二位の地域であり、施設が足りなく、選択範囲が限られる地域である。その為、重度の利用者にも対応すべく近隣の診療所にも協力を頂き、受け入れ態勢を強化している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人として生きる」という理念を掲げ、入居者の希望と身体状況のバランスを考慮し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の入居者家族、知人が当ホームに訪ねてきて下さり、地域の情報は常に収集することができ、地域の一員として交流が出来る。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者家族を通じて、一部の人達には当施設の理解はされているが、一般の人達にはまだまだ理解は不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居、退居状況、また実際に入居者の生活状況を伝達している。運営委員の方達からはそれ程意見を頂いたことはないが、今後は議案を出して頂くよう取り組みたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居依頼の相談を受けるがその都度、状況を説明し理解を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前に無断にて外出し、怪我をして帰ってきた利用者があり、また、施設の裏側に山があるので安全を考慮し、基準を考慮しながら対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止ポスター、またはミーティング時に話す機会を持ち、注意を払っている。		

静岡県(グループホーム賀茂 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者から職員にむけ、会議等で事例を話し、必要性を話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前に話し合いを持ち、またはその場所にケアマネージャーの方にも同席頂き、御理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて報告をし、改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議にて報告をし、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を常に把握できるよう、話し合いを持ち改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設の講習会に参加させて頂き、研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域関連施設の研修会に参加させて頂き、交流を図ることにより、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの話し、要望は可能な限り、時間をかけて聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほぼ毎日のように家族の方達が面会に来て下さり、要望は出来る限り受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の段階にて、例えば長期的に観ていかなければならない疾患を抱えている方に関しては、入院や受診も視野に入れた対応を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として職員、利用者とともに良い関係を作る事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方達には常々、面会に来て頂くよう声かけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域がら、入居者の親戚や知人がよく面会に来られるが、帰りの際にはまた来て頂くよう声をかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方達が近所付き合いのあった方達であり、良い関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで係わってきた家族の方達とは、手紙のやり取りを通し関係を築いている。近所にいらっしゃるので話す機会も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位で過ごせるよう、環境作りや声かけを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入所される前に担当していたケアマネージャー等に情報提供して頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や入所される前に担当していたケアマネージャー等に情報提供して頂き、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプランを作成し、家族に送り、同意書を頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況の変化が著しい為、常に見直しを行い、記録にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じ行っている。		

静岡県(グループホーム賀茂 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望や身体状況に応じ行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者が納得のもと、定期受診や緊急、終末期ケアを支援して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員同士の情報交換を密にとり、早期対応に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した場合は可能な限り病院に出向き、情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所段階にて家族に希望を伺い、主治医とともに入所～終末期の話し合い、対応が出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている。地域に関しては行政とともに体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ、対応を心掛けてはいるが、長期にわたり入所されている方達など、どうしても慣れ合いな言葉使いになってしまう事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけはおこなっているが自己決定できる方がほとんどいない状況である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き、安全に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と協力し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ひとり一人が食事を楽しみにして下さっている。自力で歩ける方のなかには片づけを手伝って下さる人もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとり一人の身体状況に応じ、食事形態や量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

静岡県(グループホーム賀茂 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄を勧めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を設け、必要に応じ食事や服薬の配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員配置の状況、また主に重度の利用者が多数おり、なかなか本人の希望通りに添えていないのが現状である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のお昼寝等、なるべく御自宅で過ごされていたような生活習慣を配慮して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々係わるものであり、処方箋を確認し、必要であれば看護師に説明を聞きながら対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや手芸、散歩等、身体状況に応じた対応をしている。		

静岡県(グループホーム賀茂 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況や職員の配置を考慮するとなかなか行けていない状況ではある。利用者によっては家族が定期的に外に連れ出す事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者に関り、支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に応じ配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりの居室にて過ごす事も可能であり、またフロア内にソファを設けくつろげる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で長年使用していたものをそのまま持参して頂いて		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症がかなり進んでいる利用者が数多く過ごしているが、安全に移動したり、自己判断で危険がないようであれば見守りなどで対応をさせて頂いている。		